

私の夢

済南外国語学校 高2 王 琳

「やった！ 決まった！」2008年に行われるオリンピックの開催地が北京に決まったというニュースを聞いた時、私はうれしくてたまりませんでした。中国人として光栄に思うだけでなく、私にとって特別な意味があったからです。私の夢はオリンピックのボランティアをすることなのです。

私は今日本語を勉強していますが、実はこれは私の希望ではありません。小学生の時、私は今の学校の入学試験を受けましたが、その時、いい点数が取れず、希望の学科に行くことができなかったのです。私はしかたなく、日本語を勉強し始めました。

でも、中学校二年生の時、あのことで私の考えは大きく変わりました。ある日、私の町に日本友好町の和歌山市の代表団が訪れました。私たちは代表団のガイドをさせてもらうことになりました。

私がガイドをしたのは、きれいな日本人のおねえさんでした。彼女は当時中学二年生だった私よりも5センチくらい背が低かったです。でも、目がきれいで、あまり化粧をしていないのに本当に美人に見えました。外国人のガイドをするのは初めてのことだったので、緊張のあまり、簡単な挨拶しかできませんでした。おねえさんはにっこり笑って「緊張しないで、何でも言っていいいわ。」と私に言いました。おねえさんがそう言ってくれたので、私は気持ちが楽になって、いつも通りの声で話せるようになりました。そして、しばらく話していると、いつのまにか、緊張していたことも忘れていました。おねえさんは本当にやさしくて、私が間違ってもよく我慢して、返事をしてくれました。私はその時たった二年しか日本語を勉強していなかったから、言いたい言葉が出てこないことがありました。その時、おねえさんが紙を出して「中国語で書いてみて。」と言いました。「えっ？ 中国語がわかるんですか。」と私は聞きました。「まあ……漢字はほとんど同じだから……書いてみてよ。」中国語を書いてもおねえさんにはわからないと思っていたのに、予想とは違って、おねえさんには言葉の意味がわかるようでした。私はおねえさんを信じて、何も考えずに、ただ一生懸命に話していました。おねえさんと別れる時、「王さんの発音はきれいですよ。よく勉強すればきっとぺらぺらになるよ。頑張っってね。」と言いました。私は本当にうれしかったです。

次の日、私は先生に会いました。「王さん、きのう誰をガイドしましたか。」と先生に聞かれました。私はおねえさんの名前を言いました。「えっ？ 彼女は代表団の通訳ですよ。」「本当ですか？ まさか……。」

私はわかりました。おねえさんは私のために、自分の身分を隠して、会話の練習をしてくれたのです。臆病な私を助けるため、よく私をほめて、わからない所も我慢しました。私と知り合いじゃないのに、いろいろ助けてくれました。このおかげで、私は日本語が本当に役立つと思って好きになり、本当によく話すようになりました。

だから、私はオリンピックのボランティアをしたいのです。オリンピックは友好を代表しています。オリンピックのボランティアをするとともに友好を伝えています。助けてくれる人しか温かく感じるだけでなく、自分の心も豊かになります。おねえさんと同じことをするのが、今私の夢です。

私はずっと彼女に感謝しています。こんな素晴らしい夢を与えてくれてありがとうございます。上手な日本語をもって、多くの日本人を助ける行動で、彼女に感謝します。

おねえさん、聞こえますか。